

令和8年（2026年）2月10日

報道関係 各位

真庭市教育委員会

【情報提供】

ガザとつながる市民の会 映画「ノー・アザー・ランド 故郷は他にない」 上映会＆トークイベント

日時▶ 令和8年3月1日（日）

1回目：午後2時30分～ 2回目：午後6時～

場所▶ 真庭市立中央図書館 3階映像シアター

市民有志の「ガザとつながる市民の会」は、2023年10月に始まったイスラエルによるガザ侵攻以降、ガザの支援を目的として、映画上映会、トークイベント、写真展等を開催しています。

今回は、ドキュメンタリー映画「ノー・アザー・ランド 故郷は他にない」を上映します。この映画は、ヨルダン川西岸地区で生まれ育ち、破壊されていく故郷の様子をカメラに記録し続け、世界に発信しているパレスチナ人の青年と、彼に協力し、彼を支えるイスラエル人ジャーナリストの青年の活動を記録した作品です。あまりに不条理なパレスチナの現実を前に、政治的背景や立場が大きく異なる二人の青年が強大な力に立ち向かう姿は、本当の自由や平等の中で生きる道を問いかけています。

当日は「パレスチナ・ガザの今とこれから」をテーマに、東京大学大学院特任准教授の鈴木啓之さん、慶應義塾大学准教授の藤屋リカさんによるオンライントークイベントとポスター展も開催します。つきましては、ぜひとも報道・取材くださいますようお願いいたします。

概要▶

1.開催日 令和8年3月1日（日）

2.場 所 真庭市立中央図書館 3階映像シアター（真庭市勝山53番地1）

3.スケジュール 上映1回目： 午後2時30分～
トークイベント： 午後4時10分～
上映2回目： 午後6時～

4.内 容 別紙チラシをご覧ください

お問い合わせ先▶

ガザとつながる市民の会（担当 吉鶴）
TEL090-7774-7093

発信元▶

真庭市立中央図書館（担当 上杉）
TEL0867-44-2012 FAX0867-44-2020



74th Internationale
Filmfestspiele
Panorama

2024年ベルリン国際映画祭2冠

〈最優秀ドキュメンタリー賞&観客賞〉

第97回アカデミー賞®[長編ドキュメンタリー賞]受賞!

ノー・アザー・ランド

故郷は他にない

監督 バーセル・アドラー、ユヴァル・アブラハム、ハムダーン・バラール、ラヘル・ショール

2024年 | ノルウェー、パレスチナ | アラビア語、ヘブライ語、英語 | 5.1CH | 95分 | 原題: NO OTHER LAND

日本語字幕: 頼賀深雪 | 字幕監修: 高橋和夫 | 記載: トランスフォーマー © 2024 ANTIPODE FILMS, YABAYAY MEDIA G (映像)

Directed, produced, written and edited by Basel Adra, Yuval Abraham, Rachel Szor & Hamdan Ballal

Director of photography Rachel Szor | Editing consultant Anne Fabini | Music Julius Pollux Rothlaender | Sound design Bård Hørazi Farbu

Producers Fabien Greenberg & Bård Kjøge Rønning

Logos: Lumière, IFFR, Sundance, Cinefondation, IMS, MIFF, MIPCOM, MIPDOC, CU, SHORTCUT, ANTIPODE, YABAYAY

それでも僕たちは
この現実を変えたい

破壊される故郷を撮影し続けるパレスチナ人青年と、彼を支えるイスラエル人青年
敵同士だったはずの2人の“命がけの友情”が生んだ奇跡のドキュメンタリー

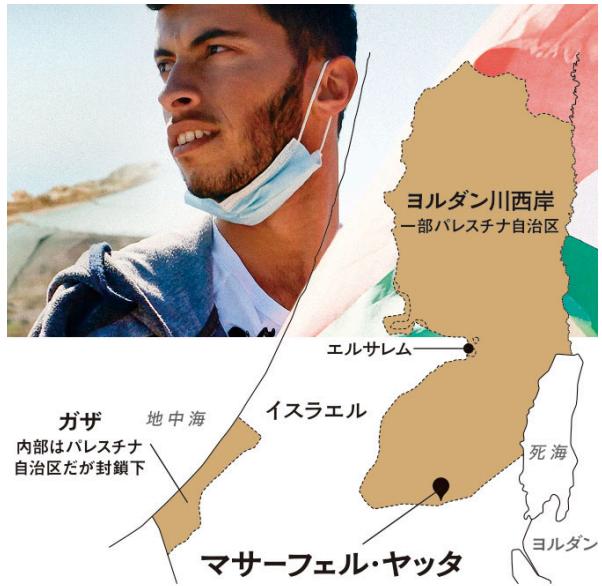
日時：2026年3月1日(日) ①14:30 ②18:00

場所：真庭市立中央図書館 3階映像シアター

参加料金：一般1,000円/ 18歳以下500円 定員各回52名

上映時間95分 / 予約不要/ 16:10頃よりトークイベント開催

パレスチナとイスラエルー立場を超えて手を取り合う ふたりの若きジャーナリストに世界中が声援と喝采!!



イスラエル軍による破壊行為と占領が今まさに進行している、ヨルダン川西岸のパレスチナ人居住地区〈マサーフェル・ヤッタ〉。本作は、この現状をカメラに収め世界に発信することで占領を終結させ故郷の村を守ろうとするパレスチナ人青年バーセル・アドラーと、彼に協力しようとその地にやってきたイスラエル人青年ユヴァル・アブラハームの2人による決死の活動を、2023年10月までの4年間に渡り記録したドキュメンタリーだ。

監督は、彼ら自身を含むパレスチナ人2人・イスラエル人2人による若き映像作家兼活動家の4人。「イスラエル人とパレスチナ人が、抑圧する側とされる側ではなく、本当の平等の中で生きる道を問い合わせたい」という彼らの強い意志のもと危険を顧みず製作された。

スマートフォンや手持ちカメラを使用した、そこで暮らす当事者だからこそ捉えることのできた至近距離からの緊迫の映像で、住民たちが家や小学校、ライフラインを目の前で破壊され強制的に追放されていく、あまりに不条理なパレスチナの現実をあぶりだしていく。

しかし、本作が映し出すのはその惨状だけではない。バーセルとユヴァルという同じ年齢の青年2人が、共に過ごし対話を重ねることで、政治的背景や立場を越えて“命がけの友情”が生まれる奇跡的な瞬間だ。

彼らの姿は、「どうしたら人は分かり合えるのか?」という問いへの一筋の希望を、私たちに与えてくれるに違いない。

16:10頃より オンライントークイベント 「パレスチナ・ガザの今とこれから」

略歴) 東京大学大学院総合文化研究科グローバル中東研究特任准教授。

博士(学術)。専門は中東近現代史、特にパレスチナ問題。主な著書に『蜂起〈インティファーダ〉占領下のパレスチナ1967-1993』(東京大学出版会)『パレスチナ/イスラエルの〈いま〉を知るための24章』(明石書店、2024年)『ガザ紛争』(東京大学出版会、2024年)。

主に中東の地域研究に従事し、パレスチナ問題を軸に中東の近現代史を研究している。



藤屋リカさん × 鈴木啓之さん

略歴) 慶應義塾大学看護医療学部/大学健康マネジメント研究科准教授。

元日本国際ボランティアセンター(JVC)パレスチナ事業担当。

主な著作に「生と性の間で—保健師としてのパレスチナ女性の聞き取りから」(長沢栄治監修・鳥山純子編著『フィールド経験からの語り』明石書店、2021年)、「日本の医療支援—パレスチナに根づいた支援」「変遷する障害者福祉—誰も置き去りにしない社会に向けて」(白杵陽・鈴木啓之編著『パレスチナを知るための60章』明石書店、2016年)。



主催: ガザとつながる市民の会 090-7774-7093

共催: 真庭市立中央図書館 0867-44-2012